



国語グループ卒業論文今昔(二〇一〇年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉見, 孝夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7368

二〇一〇年度卒業論文要旨集

国語グループ卒業論文今昔

吉見 孝夫

私がこの欄を担当するのは、おそらくこれが最後の機会となろう。いささかの感慨もあり、三十年前を振り返りたくなつた。かつては製本作業が卒論を完成させる最後の仕事であつた。原稿に穴を開け、そこに糸を通して綴じ、厚紙にクロスを張って表紙を作り、糊付けし、背にタイトルを書く。二時間程度をかけてやり終える。これが三月初めの年中行事であつた。

いや、もう一つ義務があつた。論文集の作成である。各自、論文要旨を二八〇〇字にまとめ、「国語国文学科研究論文集」と称した冊子を学生の費用負担で刊行する。これには教員も四三〇〇字程度のちよつとした論文を寄稿する。

一方変わらないこともある。中間発表会での緊張、師走二十八日の達成感・開放感、口頭試問でのシドロモドロ。

そうだ、原稿用紙に縦書き、手書きしなればならないのも変わっていない。二十一世紀も十年を過ぎたというのに、何と、何と時代錯誤、頑迷固陋、そんな声も聞こえてきそうだが、あなた方がこれから種々の場面で書く文章がなによりもそれに対する反証となるはずだ。